

2019年度東京都立高校一般入試

社会 入試分析

～入試ではこう出る!!～

【出題内容】

全20問 1問5点

分野別出題数 地理:7問・歴史:6問・公民:7問

歴史が比較的易しい一方で、中1～中2で学習する地理と中3で学習する公民に重点を置いている。ただし単純に分野別に分類できない融合問題も多く、豊富な知識と資料を分析する能力を試す問題がほとんど。

中3になっても中1・中2の知識をしっかりと覚えておくこと! さもないと、入試直前まで本当に苦労する。

〈注意すべき出題形式〉

(1) 地図や資料の読み取り問題

ほぼすべての問題で地図や、図表・グラフなどの資料の読み取りがある。どのような意図で資料が与えられているのかを考え、必要な部分を正確に読み取る分析力が必要だ。

(2) 完全解答を求める問題

複数回答すべてを正解しなければならない**完全解答を求める問題**が今年は**合計10問**となり、難度も上がった。

(3) 資料の分析記述

資料の数値を割合に直す計算をしてから考える問題が登場、難問となった。あらゆる記述問題に取り組む対策がある。

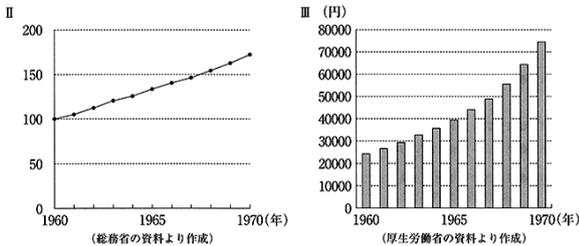
実際の問題にチャレンジ!

5 (資料の分析記述問題)

〔問1〕 働くことによって得る賃金などがあり、その金額は時代とともに変化してきた。とあるが、次のⅠの文は、1960年に閣議決定された国民所得倍増計画の構想の一部を抜粋したものである。Ⅱのグラフは、我が国の消費者物価指数について、1960年から1970年までの推移を1960年を100とした指数で示したものである。Ⅲのグラフは、我が国の一人当たりの月間現金給与額について、1960年から1970年までの金額の推移を示したものである。Ⅰ～Ⅲの資料を活用し、1960年と1970年と比較した国民生活の変化について、消費者物価指数と月間現金給与額の増加割合に着目し、簡単に述べよ。

Ⅰ 国民所得倍増計画は、速やかに国民総生産を倍増して、雇用の増大による完全雇用の達成をはかり、国民の生活水準を大幅に引き上げることを目的とするものでなければならない。

(経済企画庁編「国民所得倍増計画」1960年より作成)

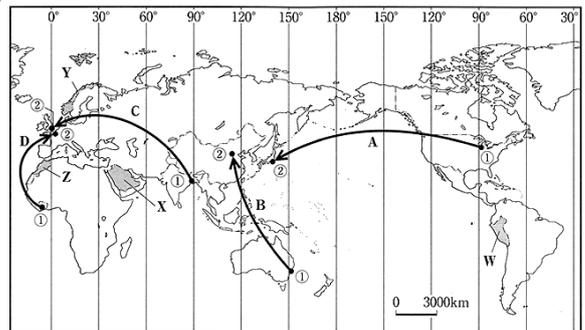


それぞれ、何を問われているのか、どのような意図で資料を与えられているかを考えなければならない。

5は「増加割合に着目し」とあるが、Ⅲのグラフは金額での表示なので、割合を自分で計算する必要がある。

2は時差の問題を含んでいるが、「飛行時間13時間」と比べて、時刻は28時間も進んでいることに着目すれば、計算しなくても答えを選ぶことができる。なお、雨温図は基本問題レベル。

2 (完全解答を求める問題)



〔問1〕 略地図中に①→②で示したA～Dは、農産物の買い付けを行う企業の社員が、それぞれの①の都市にある空港から②の都市にある空港まで、航空機を利用して移動した経路を模式的に示したものである。次のⅠの文章は、A～Dのいずれかの経路における移動の様子などについて述べたものである。ⅡのA～Eのグラフは、A～Dのいずれかの経路における①の都市の、年平均気温と年降水量及び各月の平均気温と降水量を示したものである。Ⅰの文章で述べている経路に当てはまるのは、略地図中のA～Dのうちのどれか、また、その経路における①の都市のグラフに当てはまるのは、ⅡのA～Eのうちのどれか。

Ⅰ この社員は、国際的な穀物市場が立地する①の都市において、とうもろこしの買い付けを行った後、企業が所在する②の都市に移動した。①の都市を現地時間で3月1日午後5時30分に出発し、飛行時間13時間を要して、②の都市の現地時間で3月2日午後9時30分に到着した。

(注) 時差については、サマータイム制度を考慮しない。

